

みやこ祭祀の類型化の試み（続）

－『宮古島市史』第二巻 祭祀編（上）（中）（下）による－

長濱 幸男（宮古島市史編さん委員会祭祀編小委員長）

はじめに

この小論は、『宮古島市総合博物館紀要』第25号「ひらら祭祀の類型化の試み」に続くものである。2021年、宮古島市史編さん委員会が編さんした『宮古島市史』第二巻 祭祀編（下）には、宮古島の城辺地区、下地地区、上野地区、伊良部島地区（旧町村）と多良間村の祭祀が収録された。祭祀編（上）、（中）で収録された平良地区の祭祀とあわせると、宮古島全体の祭祀の全容が明らかにされた。これは画期的な調査成果だと考える。

小論は祭祀編（上）、（中）、（下）に基づいて、宮古島の祭祀を目的別に類型化することを試みたものである。

1. 経過

宮古島全域にわたる祭祀調査は、2012年にスタートして、祭祀編下巻発刊の2021年までに10年を要した。宮古島市史編さん委員会では、調査にあたって各自治会内で行われている祭祀を、各自治会長などより取り上げて頂いた。自治会を通じた祭祀調査は、2013年から2015年まで行われた。調査に協力した自治会役員などは平良地区34名、城辺地区44名、上野地区9名、下地地区8名、伊良部地区6名、多良間村2名、合計103名である。

各自治会から報告された祭祀について、宮古島市史編さん委員会では、祭祀編小委員会をつくり、委員9名に調査地域を割り当てた。調査が困難と思われる地域については、その地域の有識者を調査協力員（5名）として委嘱した。

◎調査対象にした祭祀

祭祀集団が御嶽など祭場で行っている祭祀とした。池間などの大字集落（古い集落）や富名腰など小字集落（新しい集落）および宮原の南増原などの小字集落（里レベル）の祭祀とした。家や個人に係わる祭祀は除いた。

祭祀の内容を教えてくれた現役の神役や以前に神役を務めた方など（インフォーマント・祭祀情報提供者）は、祭祀編上巻では36名、中巻では38名、下巻では97名、計171名を数える。この方々は祭祀編にご芳名を掲載して敬意を表した。

◎調査項目

①呼称、②目的、③祭日、④祭場、⑤神役・その他、⑥祭祀レベル、⑦線香、供物、祭具、⑧祭祀の概要、⑨付随する諸芸能、⑩伝承・その他とした。

◎作業部会での点検、補足調査

市史編さん委員会・祭祀編小委員会の下に作業部会を設置した。作業部会は、調査された記録内容を点検し、追加すべき事項は補足調査し、調査員の確認を得た。作業部会は2018年度に19回、2019年度に38回も開かれた。この点検作業における編さん委員会事務局の苦労は、特筆に値すると思う。

2. 調査結果

①文献記録は、祭祀編上巻（2018年）607頁、中巻（2020年）662頁、下巻（2021年）751頁、国際音声表記で記した。

- ②写真記録は、上巻 444 枚掲載、中巻 181 枚掲載、下巻 702 枚掲載、計 1,327 枚。記録写真在庫 5 万枚。
- ③ビデオ記録は、祭祀の種類が 149 種、ビデオ本数 (DVD 収録) 314 本 (2012 年から 2016 年にかけて中断した池間、伊良部、仲地、佐和田、佐良浜の祭祀なども含まれている)。
- ④宮古祭祀の文献目録は 200 冊
- ⑤佐良浜のオヨシを収録した。このオヨシは初めての記録で、9 篇、15 章-170 節の長篇神歌である。佐良浜の元アグシャー長崎さんより録音した。

3. 調査内容

3-1 祭祀件数

宮古島の 1 年間の祭祀件数は、2000 年時点で 1,235 件である。祭祀集団は 103 ヶ所で、大字や古い集落、小字や里、新しい集落などである。1 集団当たりの年間祭祀件数は、伊良部地区が 25 件と多く、次いで上野地区が 16 件、平良地区と多良間村が 14 件である。一番少ないところは城辺地区の 7 件である。これは後ほど述べるが、古い集落ほど祭祀件数は多く、新しい集落は少ないことによるものである。平均すれば 1 集団当たり 12 件である

表 1. 宮古島の年間祭祀件数 (2000 年)

地区	件数	祭祀集団	1 集団平均
平良	485 件	34 件	14 件
城辺	325	44	7
上野	149	9	16
下地	99	8	12
伊良部	149	6	25
多良間	28	2	14
計	1,235 件	103 件	12 件

御嶽編上、中、下

3-2 祭祀名

宮古島で 2000 年から 2015 年にかけて行われている祭祀は 71 種である。その内、全島で行われている祭祀の名称 35 種◎、平良地区の祭祀名のみが 4 種●、旧町村 (城辺、上野、下地、伊良部、多良間村) の祭祀名が 32 種○、合計 71 種である。これだけ多い祭祀名は、宮古島の祭祀世界の豊かさを示している。地区ごとの呼称はユニークであるが、祭祀内容と時期、儀礼などが同様であれば、1 種の祭祀として取り扱った。最初に記載した呼称が、比較的多くの地域で使われている祭祀名である。

〈全島的に行われている祭祀〉

- 1 ◎麦プーイ、麦プーイ、ムギプーリ、麦の立御願、麦の穂祭御願、麦の大プーリ御願、麦の五尺プーリ御願、麦の御願 (伊良部 5 回)、ムズヌ・バムムツ (佐良浜)、ムズビューイウサギ (佐良浜)、ムギプーリ (多良間)
- 2 ◎粟プーイ、粟プーイ、粟の立御願、粟の穂祭御願、粟の大プーリ御願、粟の五尺プーリ御願、アーポーリ (佐和田)、アワヌ・バムムツニガイ (佐良浜)、アワビューイウサギ (佐良浜)、アワプーリ (多良間)
- 3 ◎夏プーイ、プーイ、豊年祭
- 4 ◎9 月プーリ
- 5 ◎芋のプーイ、ムーヌタスキ、イモダミ、ムーバン、芋のバンプトツ御願、(伊良部)、芋乞い御願 (伊良部)、シーポーリ (佐和田)、芋のバムムツニガイ (佐良浜)、芋のビューイウサギ (佐良浜)、イモポーリ (多良間)
- 6 ◎豆プーイ、マミヌバン (来間)、豆の立御願 (伊良部)、豆御願 (伊良部)、マミヌバムムツニガイ (佐良浜)、マミポーリ (佐和田)
- 7 ◎キビニガイ (久貝、松原、佐良浜)
- 8 ◎木綿花豊作祈願 (池間)

- 9◎ユークイ、前世乞御願、大世乞祭御願 (伊良部、仲地)
- 10◎ユースタミ (世の為)、ウフユードミ、ウプユードミ、ヨードメニガイ (佐和田)、ウホユダミニガイ (佐良浜)、ウホユダミカサムバン (佐良浜)
- 11◎ンナフカ、クユキンナフカ (迎え)、ンナフカ祭のユークイブドゥイ (宮国)
- 12◎竜宮ニガイ
- 13◎サニツ、海ザニツ
- 14◎ハーリー
- 15◎大漁ニガイ、イスガン (磯神)・ニガイ (宮国)、パマウガン (うるか)、トマイニガイ (佐良浜)、ヒダガンニガイ、浜ニガイ (佐良浜)、カリユシダミニガイ (佐良浜)、カリユシダミカサムバン (佐良浜)
- 16◎セツ・節祝い、シツプーイ、シツプーイ (6月甲午・きのえうまの日に実施、保良、西西、吉田、長南、上野、豊原、大嶺、入江、嘉手苺)、シツガムニガイ (福里)、スツガンニガイ (宮国)、スツウプナカ (多良間)、ミヤークズツ (池間、西原、佐良浜)
- 17◎スツマス (節枡)
- 18◎タティバン (願立て)、年明けウキパズミ、ミュードゥスニガイ (新年ニガイ)、年のバンダティ (長濱)、タテブン、トゥスアキ、道開け御願 (伊良部)
- 19◎トスヌバン (結願)、オワリニガイ、トゥスナギ、トゥズミニガイ、年のバンプトゥツ (長浜)、トゥスオワリヌニガイ、バンプトゥツ (国仲)、ソーフツダミ (豊原)、スーダスキ、ブトゥキバン、フナヤーフトゥキ (名嘉山)、ウガンプトゥキ (多良間)
- 20◎スマフサラ、ザーグルニガイ (宮国)、カエルガマ (池間、佐良浜)、アクバライ (多良間)、サトフサラ (大嶺)、島クサラシ
- 21◎虫払い、ムスルム、ムスルム、ムスヌム
- ウガン、ウプリ (多良間)、虫流し祈願 (伊良部)、ムルム=ムルン=物忌み
- 22◎ミズダミ、ピノードミ、10月ダミ (洲鎌) ミズノエバライ (川満)、ミズダミウガン、火道開御願 (伊良部)、ヤーキダミ、ヤータスキニガイ
- 23◎カンジャーニガイ、カッチャーニガイ、フーツキョーカ
- 24◎十五夜
- 25◎タビダスキ
- 26◎車ダスキ、道ダスキ、マンツダミ
- 27◎生徒ダスキ、合格バンニガイ、進学バンプトゥツ
- 28◎牛馬のニガイ、牧ニガイ、ウスヌバン
- 29◎マビトゥダミニガイ、マビトゥダミミッカバン、マビトゥダミカサムバン
- 30◎カーニガイ、カープーイ、アマガーニガイ (友利)、カーカスウガン (来間)
- 31◎公民館ニガイ、ズトウダミニガイ、学校ヤシキダミニガイ
- 32◎御嶽神に感謝する祈願、前の御嶽ニガイ、フナヤーニガイ、ナイファー・ニガイ、ヒヤーズニガイ、ムミヌシュー、大和御嶽の祈願 (伊良部)、多良間神社祭、イイヌプーイ (来間)、ツヌジプーイ、ヤマトガンプーイ、プカザキプーイ (洲鎌)、アカナグーマクプーイ (上地)、ムマティダプーイ (上地)、カサミュープーイ (川満)
- 33◎朔日ニガイ (狩俣)
- 34◎ダキマスニガイ (伊良部、宮原)
- 35◎プーキダミ、パナツキダミ、フーダスキ、スーダスキ、フーヌス、スーダスキ
- 〈平良地区だけに行われた祭祀〉
- 1●ウヤガン祭
- 2●島尻のパーント
- 3●米の豊作祈願 (島尻)

4 ●ウカディダミ (大風鎮)

〈旧町村だけの祭祀 (上記以外) 〉

- 1 ○ 2月ダミニガイ、ニガツパン (来間)、4月ダミ、6月ダミ (佐和田)、サーツキダミニガイ (野原)、10月ダミ
- 2 ○ ムヌグムイ (宮国)
- 3 ○ ツヌジナンカグムイ (洲鎌)
- 4 ○ ピトゥユーグムイ (来間)、トゥスナカタスキ
- 5 ○ ミイマクムイウガン (川満)
- 6 ○ 2月ヤフウダミ (川満)、6月ヤフウダミ (川満)、10月ヤフウダミ (川満)
- 7 ○ 4月グムイ、6月グムイ (来間)、8月グムイ
- 8 ○ マストリヤー (野原)
- 9 ○ 多良間の8月踊り
- 10 ○ ナーパイ (うるか、友利)
- 11 ○ グシャツ (保良、うるか、友利)
- 12 ○ マツター (竜宮ニガイ)
- 13 ○ サティパラウ (野原)
- 14 ○ ヤーマスウガン (来間)
- 15 ○ タナガマ (ダンナ)・プーイ、ミドゥンガマ・プーイ (宮国)
- 16 ○ 泳ぎニガイ (伊良部)
- 17 ○ ガンズウーサーニガイ、ガンゾーサバンプトツ (佐和田)、子供・老人の御願 (伊良部)、健康のバンタティ (長浜)
- 18 ○ マッファー (川満)
- 19 ○ 司ユルム、サスダスキ、監督ダスキ、司マスニガイ、司マツリ、アニムクライアガイニガイ (隠居ムマ慰労、佐良浜)、カカラムクライアガイニガイ (佐良浜)、ウホムクライアガイニガイ、ウホムマニガイ、ウホバンフトゥツ
- 20 ○ ダツナウイニガイ (佐良浜、現神役慰労)
- 21 ○ 20日正月 (比嘉の獅子舞)

- 22 ○ ファイバナ (フツニガイ・食の宴、宮国)
- 23 ○ 組ニガイ (宮国)
- 24 ○ 司田ニガイ (宮国 場所は洲鎌、元仲里果樹園隣)
- 25 ○ ミルクウガン (伊良部、弥勒・理想郷)
- 26 ○ 世受けダミウガン (伊良部、豊穰祈願)
- 27 ○ ミイテマール (上野)
- 28 ○ トラパーチン御願 (作業の安全)
- 29 ○ 伊良部製糖工場御願 (安全操業)
- 30 ○ ドイツムラニガイ (宮国)
- 31 ○ バシヌウガン (伊良部)、栈橋ニガイ (佐良浜)
- 32 ○ ヤマアキ (川満)

以上のように宮古島の祭祀名には(1)ウガン、(2)タスキ・ニガイ、(3)タミ・ニガイ、(4)クムイ・ニガイ、(5)プーイなどがある。ウガンは御願のことで、神々への感謝と祈願を意味している。タスキ・ニガイは、神に助けを求めるもので、生徒ダスキ、旅ダスキなどの祭祀がみられる。タミ・ニガイは現状や新たな事態を矯め直し(改善)を祈願するもので、ユーヌタミ(世の為)がその代表的な祭祀である。また、池間や狩俣に行われたウカディダミ(大風鎮め)は、台風を鎮めるための祭祀とみなされている。

クムイ・ニガイは、神女が御嶽の籠もり小屋に泊まって祈願する祭祀である。

プーイについて祭祀編では「穂利」、「穂礼」との漢字を当てている。本永清(2020)は狩俣の古謡ピャーシの「アズウラ」などに「ウブブユイ」と謡われていることから「穂祝い」ととらえている(『沖縄県史』民俗篇)。いずれも収穫前の五穀の穂を重視した祭祀である。これは稲魂信仰によるもので、種孕みの時期に物忌みして豊作を祈願したものである。シナフカがその事例である。1477年与那国に漂流した朝鮮済州島人が、与那国の稲作で物忌みしていたと報

告している(注1:谷川 1992)。最近ではプーイを収穫祭・豊年祭とも理解している。そのため五穀ではない芋にもプーイをつけて豊作を祈願している。

注1「水田・・・12月の間に牛に踏ませて種を播き・・・いまだ穫る前には人皆謹慎し、言語すといえども声をはげしうせず、口をせばめてくちぶえをなさず」(『李朝実録』)

「宮古島旧記」によれば、平良四カ村、狩俣村の神女が10月から12月にかけて山奥に籠もり祈願する古くからの習慣(祭祀)があった。その祭祀を佐渡山親方の時(1678年)禁止したが、狩俣村、島尻村で「世乞い祭」(ウヤガン)が復活した。それを与世山親方が1767年に禁止した。与世山親方は次の祭祀も禁止した。池間、前里、狩俣の「磯神祭」、池間、前里の「木綿花の豊作祈願」と「カーニガイ」、久貝、松原の「イモの豊作祈願」、「サニツ」、「世乞い」、「サトゥダミ」等である(長濱 2021)。

この禁止令は1793年に王府より宮古在番宛の通知で解禁されるが、上記の民間祭祀が1678年以前から行われていたことは明らかである。

宮古島の最高神職は「大按母」(おおあも)である。王府から任命されたのは歴史は古く、仲宗根豊見親時代である。豊見親の妻が尚真王から大按母に任命された(1500年)。したがって、仲宗根豊見親の時代から宮古島の民間祭祀は行われていたと考えられる。

3-3 祭祀の目的別分類

上記の71種の祭祀を目的別に分類すると、次の10項目に区分けすることができる。

まず、豊作祈願は麦や粟など五穀やイモやキビなどの個別的な作物を特定し、その豊作を祈願する祭祀である。タテバン(立願)、トスヌバン(結願)、ウヤガン祭などは、個別的あるいは特定の目的の祈願ではなく、総合的な意味

合いを目的にした祈願であることから、村立てした神、始祖神への祭祀とした。また、神に村人の願いを伝え・仲介する神役の健康や慰労に関する祭祀も始祖神への祭祀と一緒にした。

なお、拙稿「ひらら祭祀の類型化の試み」『宮古島市総合博物館紀要第25号』では、祖先神への感謝と祈願(祖先崇拜)と分類した。ところが家族単位の祖先崇拜・お盆や旧16日祭との区別が明確でなかった。それで、村立ての神として祀られている神への祭祀を「始祖神への感謝と祈願」とすることにした。

ユークイ(世乞い)は豊穰祈願である。ユースタミ(世の為)は凶作をなくし、次の豊作を予祝する祭祀であるので、豊穰祈願と同一とみなした。シナフカは渡来神が五穀豊穰をもたらすので、物忌みして豊穰を祈願する祭祀である。

ダキマスは乳児の健康祈願であり、マビトダミは成人の健康祈願である。風邪予防のためのプーキダミは健康・無病息災祈願である。スマフサラは悪霊祓いであり、ヤフバライは厄払いである。ナーパイは津波除け、ウカジダミは台風を鎮める、ハーリーは航海安全と豊漁祈願である。シツやミヤークヅツ、カーウガンは節祝い、新しい節目を祝うもので、農業暦からは正月にあたる。ムスルム、ムスルムは害虫払いである。フーツキョーカ、カンジャーニガイは鍛冶神(フィゴの神)への安全と感謝の祈願である。生徒ダスキ、合格ニガイは学問の神への祈願である。以上をまとめると、次の「宮古島祭祀の10分類基準」のとおりである。

表2 宮古島祭祀の10分類基準

1. 豊作祈願 麦、粟、芋、豆、キビなどの豊作祈願 1◎、2◎、3◎、4◎、5◎、6◎、7◎、 8◎、28◎、3●、8○、11○
2. 始祖神と神役への感謝と祈願

タテバン、ウヤガン祭、神役慰労など 18◎、19◎、32◎、33◎、1-5○、9○、19○、23○、26○、32○
3. 豊穰祈願 ユークイ、ユースタミ、ンナフカなど 9◎、10◎、11◎、1●、24○、25○
4. 健康・無病息災 ダキマス、真人ダミ、プーキダミなど 24◎、25◎、29◎、34◎、35◎、6-7○、14○、15○、17○、20○、21○、22○
5. 災害除け スマフサラ、ヤフバライ、ミズダミなど 20◎、22◎、26◎、30◎、2●、10○、13○、16○、27○、28○、29○、30○
6. 豊漁・航海安全 竜宮ニガイ、海ザニツ、ハーリーなど 12-15◎、12○、31○
7. 節祝い シツ、宮古節、スツウプナカ、カーウゴン 16◎、17◎、30◎
8. 害虫払い ムスルム、ムスルム、虫流し祈願など 21◎
9. 鍛冶神への感謝 フーツキヨーカ、カンジャーニガイなど 23◎
10. 学問神への感謝 生徒ダスキ、合格ニガイ、進学ニガイ等 27◎

上記表2の「宮古島祭祀の10分類基準」によって71種類の祭祀を整理してみると、次の通りの結果となった。なお、◎印は全島共通の祭祀、●平良独自の祭祀、○旧町村と多良間村の祭祀、番号は通し番号である。ここでは、4健康祈願と④無病息災を同類、6豊漁祈願と⑥航海安全を同類としてみなした。

表3. 宮古島祭祀の10分類 (2000年)

祭祀目的	平良	旧町村	合計
1. 豊作祈願	113 (23%)	241 (32%)	354 (29%)
2. 始祖神・神役に感謝	87 (18%)	119 (16%)	206 (17%)
3. 豊穰祈願	56 (11%)	86 (11%)	142 (12%)
4. 健康祈願	72 (15%)	54 (7%)	126 (10%)
④. 無病息災			
5. 災害除け	26 (5%)	100 (13%)	126 (10%)
6. 豊漁祈願	47 (10%)	51 (7%)	98 (8%)
⑥. 航海安全			
7. 節祝い	34 (7%)	49 (7%)	83 (7%)
8. 害虫払い	17 (4%)	34 (5%)	51 (4%)
9. 鍛冶神に感謝	20 (4%)	10 (1%)	30 (2%)
10. 学問の神に感謝	13 (3%)	6 (1%)	19 (1%)
合計	485 (100%)	750 (100%)	1,235 (100%)

上記の表3から、読み取れるものは何か。

①平良地区では、祭祀全体に占める豊作祈願の割合が23%と一番多い。次いで始祖神や神役への感謝(18%)と健康・無病息災(15%)と続き、そして豊穰祈願(11%)と豊漁・航海安全(10%)となっている。

②旧町村では、豊作祈願が32%と祭祀全体の3分の1を占め、平良地区よりも約10%多い。これは農村地域の特徴だと考えられる。次いで始祖神と神役への感謝と祈願(18%)と災害除け(13%)と続き、そして豊穰祈願(11%)となっている。

③宮古島全体では、豊作祈願が29%と一番多く、次いで始祖神と神役への感謝と祈願(17%)と続き、そして豊穰祈願(12%)、健康・無病息災(10%)、災害除け(10%)となっている。

3-4 新旧集落の10分類比較

〈平良地区〉

平良地区の大字(古い集落)は、池間、大神、狩俣、島尻、大浦、久貝、松原に市街地と西原(福山を除く)を加えた9カ所である。この大字集落は雍正旧記(1727)に記されたものがほとんどである。西原は1874(明治7)年に池間、前里村から分離して村立てした集落であるが、古い集落に組み入れた。それ以外は小字集落で、明治以降村立てされた新しい集落である。

表4 平良地区 (2000年)

	大字	小字	小計
1. 豊作祈願	67(24)	46(23)	113(23)
2. 始祖神	50(18)	37(18)	87(18)
3. 豊穰祈願	30(10)	26(13)	56(11)
4. 健康祈願	45(16)	27(13)	72(15)
5. 災害除け	16(6)	10(5)	26(5)
6. 豊漁航海	30(10)	17(9)	47(10)
7. 節祝い	16(6)	20(10)	36(7)
8. 害虫払い	15(5)	2(1)	17(4)
9. 鍛冶神	5(2)	13(6)	18(4)
10. 学問神	9(3)	4(2)	13(3)
祭祀件数	283	202	485
祭祀集団	9	25	34
1集団当り	31	8	14

上記の表から読み取れるものは何か。

①10分類で大字と小字を比較すると、豊作祈願が一番多く、次いで始祖神、豊穰祈願、健康祈願がほぼ同率になっている。

②両集落で明らかに違っているものは、1集団

当たりの祭祀数である。大字(古い集落)は年間祭祀が31件と多く、小字(新しい集落)は8件と少ない。

③両集落の祭祀数に大きな違いはあるものの、目的別10分類では、ほぼ同率となっている。その要因は、小字集落の祭祀が簡素化、簡略化されながらも、肝心な目的をもつ祭祀は、集約、代替え(例えば豊作祈願は、麦・粟に集約)して実施されたことによるものである。

〈旧町村、多良間村〉

旧町村(城辺、上野、下地、伊良部各地区)と多良間村の古い集落は、雍正旧記(1727)に記された集落に加え、1771年の明和の大津波以前に村立てされた集落である。

城辺地区の古い集落は、保良、新城、比嘉、長中、うるか、友利の6集落である。

上野地区の古い集落は、新里、宮国、野原の3集落である。下地地区は来間、与那覇、上地、洲鎌、嘉手苺、川満の6集落である。伊良部地区は伊良部、仲地、国仲、長浜、佐和田、佐良浜の全ての集落である。多良間村も仲筋と塩川の全集落が古い集落である。

表5 旧町村(城辺、上野、下地、伊良部、多良間村)

	古集落	新集落	小計
1. 豊作祈願	152(36)	89(27)	241(32)
2. 始祖神	59(14)	60(19)	119(18)
3. 豊穰祈願	36(9)	50(15)	86(11)
4. 健康祈願	39(9)	15(5)	54(7)
5. 災害除け	52(12)	48(15)	100(13)
6. 豊漁航海	32(7)	19(6)	51(7)
7. 節祝い	23(5)	26(8)	49(7)
8. 害虫払い	25(6)	9(3)	34(5)
9. 鍛冶神	5(1)	5(1)	10(1)
10. 学問神	5(1)	1(1)	6(1)
祭祀件数	428	322	750

祭祀集団	24	46	70
1 集団当り	18	7	11

(2000年)

上記の表から読み取れるものは何か。

①豊作祈願が、平良地区同様高い割合で実施されている。次いで始祖神、豊穰祈願が続いている。旧町村では災害除けが12~15%の続き、健康祈願を上回っている。

②旧町村でも古い集落の祭祀数が18件と多く、新しい集落は7件と少ない。

③両集落の祭祀数に大きな違いはあるものの、目的別10分類ではほぼ同率となっている。その要因は、平良地区と同様、小字集落の祭祀が簡素化、簡略化されながらも、肝心な目的をもつ祭祀は、集約・代替えして実施されているからである。

3-5 宮古島祭祀の四大分類

目的別10分類を、さらに共通の目的をもつものどうしにまとめ、一群の持つ共通の性質を具体的形象として描き出してみた。

粟プーイなど(豊作祈願)、ユークイなど(豊穰祈願)、イソガンニガイなど(豊漁祈願)、フーツキョーカなど(鍛冶神祈願)、これらの持つ共通性は「農耕儀礼」としてまとめることができる。

ダキマスなど(健康祈願)、シツ(節祝い)、カーニガイなど(水神へ感謝)、生徒ニガイなど(学問の神)、これらの目的とする共通性は「健康・長寿儀礼」である。ヤフバライなど(無病息災)、プーキダミ(防疫)、ミズダミ(防火)、ナーパイ(津波除け)、ムスルム(害虫払い)、竜宮ニガイ(航海安全)などの祭祀の共通性は「防災儀礼」である。

ウヤガン、ウヤーン(村立神への感謝)、タテバン・トウスヌバン(立願・結願)などは始祖神への感謝祈願である。ツカサニガイ(神役

慰労)、ウカウルビシノウカニガイ(香炉浄め祈願)などは、「始祖神への感謝」と一体のものとみなし「始祖崇拝(信仰)儀礼」とした。

以上をまとめると、次の四大分類の基準となる。

表6 四大分類の基準

10分類の項目	四大分類
1. 豊作祈願、3. 豊穰祈願、6. 豊漁、9. 鍛冶神例、粟プーイ、ユークイ、イソガンニガイ、フーツキョーカ	I 農耕儀礼 (来訪神) 一次産業
4. 健康祈願、7. 節祝い・水神感謝、10. 学問の神例、ダキマス、ヤマス、シツ、シツマ、カーニガイ、シトウニガイ	II 健康長寿 (健康・安寧祈願)
④. 無病息災・防疫、5. 災害除け、⑥. 航海安全、8. 虫払い 例、スマフサラ、ヤフバライ、プーキダミ、ミズダミ、ナーパイ、リュウグーニガイ、ムスルム	III 防災儀礼 (防疫、防火、 防災、虫払い)
2. 始祖神・神役に感謝 例、ウヤガン、タテバン ツカサニガイ	IV 始祖崇拝 (滞在神・ 神役慰労)

「宮古島祭祀の10分類」(表2)の祭祀を、表6の「四大分類基準によって整理してみた。四大分類を平良地区、旧町村(多良間村)宮古島全体で比較してみた。

表7 宮古島祭祀の四大分類 (2000年)

祭祀目的	平良	旧町村	合計
I 農耕儀礼	213 (44%)	362 (48%)	575 (47%)
II 健康長寿	81 (17%)	109 (15%)	190 (15%)

Ⅲ防災儀礼	104 (21%)	160 (21%)	264 (21%)
Ⅳ始祖崇拝	87 (18%)	119 (16%)	206 (17%)
合計	485 (100%)	750 (100%)	1,235 (100%)

上記の表7から読み取れるものは何か。

- ①宮古島全体の目的別祭祀は、農耕儀礼が47%と約半分を占めている。これは特徴的な数値割合である。次いで防災儀礼が21%と続く。2000年以前は雨乞い祭など防災儀礼は、もっと多かったと推測される。理由は近年に地下ダム建設と畑地灌漑（灌水事業）による干ばつの被害解消がある。また消防力の向上による防災や予防医学進展による防疫が進んでいるからである。健康長寿と始祖神への感謝は、ほぼ同じ割合である。ただし、全ての祭祀で神への感謝は捧げられているが、主な目的（四大分類）で区分したことによるものである。
- ②四大分類を平良地区と旧町村で比較してみると、農耕儀礼が両地区とも高い割合で、旧町村が48%と約半分を占めている。次いで両地区とも防災儀礼が21%と同率である。健康長寿と始祖崇拝に大きな違いは見られない。
- ③以上の結果が浮き彫りにしていることは、村人の生きようとする志や願い事が宮古島の祭祀に反映されていると云うことである。
- ④その願い事とは、何よりも豊作や豊漁など豊かさへの願いである。次いで台風や干ばつなど自然災害や疫病、火災、害虫、海難事故などを防ぐための防災・安全への願いである。そして健康長寿への願いと村立てをした始祖神に感謝しながら祈願することが祭祀儀礼の内容であると考えられる。
- ⑤この目的別四大分類は、宮古島の四大祭祀儀礼と称することができよう。明日への不安を解

消し、希望につながる祈りは人々の全ての礎ともなる営みでもある。祭祀は時代とともに変容していると云われているが、豊かさ（豊作・豊穰）を求め、わざわいを祓い（防災）、身心の健やかさ（健康長寿）を始祖の神々に感謝し祈願する、この四大祭祀儀礼の本質は変わらないと思う。こうした宮古島の祭祀が、集落民の連帯意識・絆・結いの心を育むことに繋がったものとする。

3-6 新旧集落の四大分類比較

四大分類で古い集落（大字）と新しい集落（小字）の祭祀を比べてみた。

表8 平良地区 (2000年)

	大字	小字	小計
1. 農耕儀礼	116 41%	97 48%	213 44%
2. 健康長寿	50 18%	31 15%	81 17%
3. 防災儀礼	66 23%	38 19%	104 21%
4. 始祖崇拝	51 18%	36 18%	87 18%
計	283 100%	202 100%	485 100%
祭祀集団	9	25	34
1 集団平均	31	8	14

上記の表8から読み取れるものは何か。

- ①平良地区は、古い集落（大字）と新しい集落（小字）とも農耕儀礼が4割以上と高い比率を占めている。新しい集落で農耕儀礼が約5割を占めているのは特筆すべきことである。
- 次いで防災儀礼と2割を占め、始祖崇拝と健康長寿の儀礼はほぼ同率である。
- ②一集団当たりの祭祀数は古い集落が31件と

多く、新しい集落は8件と少ない。その理由は先の10分類比較で述べたように、大字(古い集落)は同じ目的の祭祀を複数も開催し、小字(新しい集落)は祭祀を簡素化して行っているからである。

表9 旧町村(城辺、上野、下地、伊良部、多良間村)

	古集落	新集落	小計
1. 農耕儀礼	210 49%	152 47%	362 48%
2. 健康長寿	67 16%	42 13%	109 15%
3. 防災儀礼	92 21%	68 21%	160 21%
4. 始祖崇拜	59 14%	60 19%	119 16%
計	428 100%	322 100%	750 100%
祭祀集団	24	46	70
1 集団平均	18	7	11

(2000年)

上記の表9から読み取れるものは何か。

①旧町村では新旧集落とも農耕儀礼が約5割と高い割合である。次いで防災儀礼と続き、始祖崇拜と健康長寿の儀礼はほぼ同率である。

②一集団当たりの祭祀数は古い集落が18件と多く、新しい集落は7件と少ない。その理由は先の10分類比較で述べたように、古い集落は同じ目的の祭祀を複数行っていることによる。

4. 祭祀・御嶽・神役数の推移

4-1 祭祀件数の推移

宮古島の祭祀が中断し少なくなったと云われているが、これまで、その実態は数字として明らかでなかった。今回の宮古島市史編纂委員会・祭祀編小委員会では、2000年から2015年にかけて宮古島で実施された祭祀と2015年時

点で継続されている祭祀を区分けして調査することができた。このことにより2000年時点と2015年時点の祭祀数を比較することが可能となった。2000年当時は、池間、狩俣、島尻、大浦、伊良部、仲地、佐良浜などで古い祭祀が継承されていた。ところが15年後の2015年には、上記集落の古い祭祀が数多く中断もしくは減少している。したがって、2000年と2015年の祭祀件数の比較は、宮古島の祭祀動向を探る上でも極めて重要であると思われる。

表10 平良地区

①~⑧は古集落

祭祀集団	2000年	2015年	減少
①. 池間	40件	1件	大幅減
②. 大神	28	28	
③. 狩俣	32	2	大幅減
④. 島尻	28	5	大幅減
⑤. 大浦	36	4	大幅減
⑥. 西原	39	39	
⑦. 久貝	31	31	
⑧. 松原	31	31	
小計	265	141	-124
9. 福山	11	11	
10. 成川	5	2	
11. 下崎	2	2	
12. 荷川取	12	12	
13. 東添道	9	9	
14. ニャーツ	7	0	
15. 富名腰	15	15	
16. 腰原	3	0	
17. 七原	4	4	
18. 地盛	9	9	
19. 山中	3	3	
20. 盛加	4	4	
21. 野原越	9	9	
22. 細竹	6	6	

23. 宮積	11	11	
24. 土底	13	13	
25. 更竹	8	8	
26. 瓦原	4	4	
27. 南増原	13	13	
28. 北増原	14	14	
29. サガニ	3	3	
30. スナ	7	7	
31. ムテヤ	11	11	
32. 高野 1	11	11	
33. 高野 2	8	8	
小計	202	189	-13
34. 市街地	18	4	
計	485	334	-151

表 11 城辺地区 ①③⑯⑳㉓㉔㉗㉘は古集落

祭祀集団	2000年	2015年	減少
①. 保良	15件	15件	
2. 吉野	3	1	
③. 新城	3	3	
4. 皆福	3	0	
5. 七又	5	0	
6. 福東 1	21 (5)	3 (0)	大幅減
7. 福東 2	(7)	(0)	
8. 福東 3	(6)	(3)	
9. 福東 4	(3)	(0)	
10. 福里字	18	18	
11. 福中	8	0	
12. 福北 1	17 (9)	10 (9)	半減
13. 福北 2	(8)	(1)	
14. 福南 1	7 (4)	0 (0)	
15. 福南 2	(3)	(0)	
16. 西東	4	4	
17. 仲原	5	2	
18. 加治道	4	4	
⑯. 比嘉	19	19	

20. 西中 1	28 (9)	7 (7)	大幅減
21. 西中 2	(14)	(0)	
22. 西中 3	(5)	(0)	
23. 西西 1	18 (6)	13 (6)	
24. 西西 2	(7)	(7)	
25. 西西 3	(5)	(0)	
26. 吉田 1	9 (2)	1 (1)	
27. 吉田 2	(7)	(0)	
28. 長南 1	40 (7)	19 (7)	半減
29. 長南 2	(12)	(0)	
30. 長南 3	(4)	(4)	
31. 長南 4	(9)	(0)	
32. 長南 5	(8)	(8)	
㉓. 長中 1	11 (6)	0 (0)	
㉔. 長中 2	(5)	(0)	
35. 長北 1	8 (4)	0 (0)	
36. 長北 2	(4)	(0)	
37. 上区 1	28 (2)	2 (2)	大幅減
38. 上区 2	(8)	(0)	
39. 上区 3	(9)	(0)	
40. 上区 4	(5)	(0)	
41. 上区 5	(4)	(0)	
42. 下南	10	10	
㉗. うるか	19	19	
㉘. 友利	22	22	
計	325	172	-153
古集落	89	78	-11
新集落	236	94	-142

表 12 上野地区 ①②⑤は古集落

祭祀集団	2000年	2015年	減少
①. 新里	28件	28件	
②. 宮国	35	35	
3. 高田	14	4	
4. 上野	14	5	
⑤. 野原	15	15	

6. 豊原	21	11	
7. 千代田	3	1	
8. 名嘉山	10	10	
9. 大嶺	9	3	
計	149	112	-37
古集落	78	78	0
新集落	71	34	-37

表 13 下地地区 ①～⑧は古集落

祭祀集団	2000年	2015年	減少
①. 来間	21件	21件	
②. 與那覇	12	12	
③. 上地	22	22	
④. 洲鎌	11	11	
5. 入江	6	6	
⑥. 嘉手苺	2	2	
7. 高千穂	9	9	
⑧. 川満	16	16	
計	99	99	0
古集落	84	84	0
新集落	15	15	0

表 14 伊良部地区 ①～⑥は古集落

祭祀集団	2000年	2015年	減少
①. 伊良部	36件	0件	大幅減
②. 仲地	36	1	大幅減
③. 国仲	9	9	
④. 長濱	14	14	
⑤. 佐和田	10	10	
⑥. 佐良浜	44	1	大幅減
計	149	35	-114
古集落	149	35	-114
新集落	0	0	

表 15 多良間村 ①②は古集落

祭祀集団	2000年	2015年	減少
①. 仲筋	14件	14件	
②. 塩川	14	14	

計	28	28	0
古集落	28	28	0
新集落	0	0	0

以上のように表 10 (平良地区)、表 11 (城辺地区)、表 12 (上野地区)、表 13 (下地地区)、表 14 (伊良部地区)、表 15 (多良間村) の 6 地区集計結果が次の表である。

表 16 各地区ごとの祭祀件数推移 (集計)

祭祀集団	2000年	2015年	継続率
1. 平良	485件	334件	69%
2. 城辺	325	172	53%
3. 上野	149	112	75%
4. 下地	99	99	100%
5. 伊良部	149	35	23%
6. 多良間村	28	28	100%
計	1,235件	780件	63%

上記の表から、読み取れるものは何か。

①宮古島全体の祭祀は2000年時点で1,235件行われていた。2015年になると780件となり継続率は63%である。15年間で455件も少なくなっている(減少率37%)。

平良地区では池間、狩俣、島尻、大浦の各祭祀が124件も大幅減少している。城辺地区は福東、西中、上区が大幅減少、23祭祀集団が祭祀を中断し155件も減少している。伊良部地区では伊良部、仲地、佐良浜が大幅に減少し、114件減少している。

②祭祀の継続率が高い地区は、下地地区と多良間村で100%ある。

祭祀件数の推移を、古い集落と新しい集落で比較してみた(表 17)。

表 17 新旧集落の祭祀件数推移 (集計)

祭祀集団	2000年	2015年	継続率
------	-------	-------	-----

1. 平良	485 件	334 件	68%
古集落	265	141	53%
新集落	202	189	93%
市街地	18	4	※
2. 城辺	325	172	53%
古集落	89	78	88%
新集落	236	94	40%
3. 上野	149	112	75%
古集落	78	78	100%
新集落	71	34	48%
4. 下地	99	99	100%
古集落	84	84	100%
新集落	15	15	100%
5. 伊良部	149	35	23%
古集落	149	35	23%
新集落	0	0	
6. 多良間村	28	28	100%
古集落	28	28	100%
新集落	0	0	
計	1,235 件	780 件	63%
古集落	693	444	64%
新集落	524	332	63%
市街地	18	4	※

上の表 17 から読み取れるものは何か。

①宮古島全体の祭祀継続率は、古い集落が 64%、新しい集落が 63%の祭祀の継続率である。新旧集落は同じように、6 割余の祭祀を継承していることになる。

②地区ごとにみると、伊良部地区と平良地区で古い集落の祭祀が数多く減少している。これは、池間、狩俣、島尻、大浦、伊良部、仲地の祭祀の大半が中断したことによるものである。

③一方、城辺地区と上野地区では新しい集落の祭祀が大幅に減少している。新しい集落では神役不在で祭祀が中断し、38-45%の低い継続率になっている。

④城辺と上野地区の古い集落では、神役が空席になった時、自治会役員や男性神役が祭祀を執行しているため、古集落の祭祀継続率 88-100%と高くなっている。自治会役員がサポートしている古い集落は、うるか、友利、与那覇などである。

⑤このように神役や自治会役員の支援活動が、宮古島全体として新旧集落の祭祀継続率をほぼ同率にしている(表 26)。

4-2 御嶽の数の推移

『宮古島市史』祭祀編(上、中、下)の編さんにあたっては、大字(古集落)、小字(新しい集落)の祭祀集団が 2000 年から 2015 年にかけて行った年間祭祀を調査した。あわせて祭祀が行われている御嶽や拝所も記録した。

平良地区の御嶽・拝所については、宮古島市総合博物館紀要第 25 号、拙稿の「ひらら祭祀の類型化の試み」に関する資料に掲載したので省略する。

表 18 城辺地区の御嶽・拝所

●重複

祭祀集団	御嶽・拝所名
1. 保良 9カ所	①イガラムトゥ、②バカボウウタキ、③タキナカウタキ、④カームトゥ、⑤ウタッチャームトゥ、⑥元島ムトゥ、⑦ピャウナウタキ、⑧ミヤードウムトゥ、⑨旧公民館
2. 吉野 3カ所	①バイミガーウタキ、②マダマウタキ、③アガイチダウタキ
3. 新城 7カ所	①ニスヌウタキ、②パイヌウタキ、③スマジャーウタキ、④ンナカガーウタキ、⑤ブイキヤーウタキ、⑥里のウタキ、⑦ブンミヤーウタキ
4. 皆福 4カ所	①タラマウタキ、②ウプジームトゥ、③ニスパウマティダウタキ、④ティンヌマツカマウタキ

5. 七又 4カ所	①ムトゥウタキ、②池間ウタキ、 ③ナイカニウタキ、④トゥユムシ ューウタキ
6. 福東1 2カ所	①ティンテイフウチョーヌヌス、 ②アサヌシューウタキ
7. 福東2 4カ所	①ウプムマ (大御嶽)、②ユーヌ ヌス、③鍛冶の神、④クルマヌス
8. 福東3 1カ所	①パツマル
9. 福東4	●ウプムマ (里御嶽)
10. 福里字 10カ所	①イラウピャーズ、②アカドウヌ、 ③ブムミャー、④大和御嶽、⑤ツ カサ御嶽、⑥ウガム御嶽、⑦ウガ ンムミ、⑧ミルク御嶽、⑨ルーグ 御嶽、⑩野城御嶽
11. 福中 3カ所	①ティンヌマツカニ、②ティンヌ バカボー、③ティンヌカニガマ
12. 福北1 2カ所	①カムヤマ、②タキマキウタキ、 ●野城按司のシュー、●ウガムウ タキ、●ミルク御嶽
13. 福北2 1カ所	●アカドウヌ、①アガイナイカニ、 ●ウガンヤウウタキ
14. 福南1 2カ所	●アカドウヌ、●大和御嶽、①テ イラスカニシュー、②ニヌパバカ ボウ
15. 福南2	●福南1同所
16. 西東 2カ所	①赤殿御嶽、②イイヌムミウタキ (西の嶺御嶽)
17. 仲原 2カ所	①ニスヌアマリパー、②パイヌア マリパー
18. 加治道 2カ所	①アカドウヌ、②クールフ (大御 嶽)
19. 比嘉 9カ所	①ツカサウタキ、②ウイカウタキ、 ③高腰御嶽、④嶺の主御嶽、⑤按 司のカー、⑥リュウグウタキ、⑦ 大和御嶽、⑧浦底御嶽、⑨弥勒御 嶽

20. 西中1 2カ所	①ウプウタキ、②ミルクウタキ
21. 西中2 3カ所	①アカドウヌ、②ビマルウタキ、 ③ミルクウタキ
22. 西中3 5カ所	○ウプウタキ、①ビマルウタキ、 ②ミルクウタキ、③カーヌウタキ、 ④ウパッチャー
23. 西西1 3カ所	①ウプウタキ、②カーヌウタキ、 ③公民館のイビ
24. 西西2 2カ所	①アカドウヌウタキ、②ミルクウ タキ
25. 西西3 1カ所	①ピギタリユースヌス
26. 吉田1 2カ所	①ツマリャーヤウタキ、②ヤマズ ーウタキ
27. 吉田2 2カ所	①ヤッチャーウタキ、②ンキャ ウスウタキ
28. 長南1 3カ所	①ウプウタキ、②ナカウタキ、③ アガイヌウタキ
29. 長南2 1カ所	●ウプウタキ、①イイヌウタキ
30. 長南3 1カ所	●ウプウタキ、●ナカウタキ、① ムマヌパウタキ
31. 長南4 1カ所	●ウプウタキ、●ナカウタキ、① パイヌウタキ
32. 長南5 4カ所	①飛鳥御嶽、②マラシウタキ、③ 天ヌ主御嶽、④ニスパムマティダ 御嶽
33. 長中1 5カ所	①ウイカヌス御嶽、②ツカサ御嶽、 ③飛鳥爺御嶽、④長間御嶽、⑤ユ クミシュー御嶽
34. 長中2 1カ所	①キヤーギカンドウヌウタキ
35. 長北1 3カ所	①ユースカムウタキ、②ミルクウ タキ、③天ヌ主御嶽
36. 長北2 3カ所	①ユースカムウタキ、②ニヌパバ カボーウタキ、③大和御嶽
37. 上区1	①マラシウタキ、②ンギシャーウ

7カ所	タキ、③ティンヌマツカニウタキ、④マイガーウタキ、⑤ブンミヤウタキ、⑥ウザンミウタキ、⑦大御嶽
38. 上区2	●大御嶽
39. 上区3	●マラシウタキ
40. 上区4	●テンヌマツガニウタキ
41. 上区5	●ウサムミウタキ
42. 下南 7カ所	①トゥンダキウタキ、②パルガーウタキ、③シッチャマウタキ、④アダンガー、⑤シチャマ、⑥イイヌバダ、⑦カッチャームミ
43. うるか 13カ所	集落内：ブムミヤ、②ユークイムトウ、③ミヤードムトウ、④カンマザー元、⑤ピラカッチャ 上比屋山内：①前の屋元、②前上比屋元、③前喜佐間元、④後喜佐間元、⑤ウプムマムトウ、⑥ウイダテムトウ 最寄の御嶽：①フフヤーマウタキ（来間御嶽）、②佐和田屋御嶽
44. 友利 18カ所	①ブムミヤ、②スガヤームトウ、③ニヌパムマチダムトウ、④ンギヌミームトウ、⑥タカパナムトウ、⑦クバカガフウムトウ、⑧ンニマムトウ、⑨キイキヤームトウ、⑩ツブガームトウ、⑪タカイムトウ、⑫チンチィフムトウ、⑬イスカキムトウ、⑭ウパギスムトウ、⑮ウミヤームトウ、⑯アマガー、⑰ウサギジー、⑱その他
計	154カ所

表19 上野地区

祭祀集団	御嶽・拝所名
1. 新里 2カ所	①ブムミヤ、②ツカサヤウタキ
2. 宮国	①スカプヤムトウ、②マイニヤ

21カ所	ムトウ、③スキヤガマムトウ、④ナカグムイムトウ、⑤スマスタテイ、⑥ナイフウウタキ、⑦プザームトウ、⑧スバジラ、⑨フナヤ、⑩マピダ、⑪スキヤドゥマリヤムトウ、⑫ブムミヤ、⑬ジューギザーギムミザー、⑭カンジャーウタキ、⑮ザウニヤウタキ、⑯トウマイムムウタキ、⑰リュウグ、⑱マイヌカー、⑲スミヤガマウタキ、⑳マイヌウタキ、㉑ウブバリウタキ
3. 高田 6カ所	①ピギタリヤウタキ、②テンヌマツカニ、③スサアッフヤウタキ、④カッチャウタキ、⑤イイアウバリウタキ、⑥ニヌパヌマティダウタキ
4. 上野 7カ所	①ヤーバリウタキ、②ガーラバリウタキ、③ティンヌバカボーユヌヌスウタキ、④アカザキウタキ、⑤イストウマリヤウタキ、⑥ユヌヌスウタキ、⑦ピギタリユヌヌス
5. 野原 11カ所	①公民館トゥクルカム、②ウブウタキ、③ナカウタキ、④イイウタキ、⑤ムムクリヤ、⑥タマザラウタキ、⑦カーニザウタキ、⑧ボーウタキ、⑨サトゥウタキ、⑩シミヤザ、⑪ウティンドー
6. 豊原 3カ所	①ニヌヌウタキ、②ナカウタキ、③タカヤマウタキ
7. 千代田 4カ所	①ナベアマウタキ、ツンマーウタキ、③カーンミウタキ、④カナイダウタキ
8. 名嘉山 3カ所	①テマカウタキ、②ムトウヤウタキ、③ヤマニーウタキ

9. 大嶺 5カ所	①シツウタキ、②ヒゲタラウタキ、 ③ピギタラユーヌヌスウタキ、④ ニヌパムマティダウタキ、⑤ウプ ユーヌスウタキ
計	62カ所

表 20 下地地区

祭祀集団	御嶽・拝所名
1. 来間 17カ所	①アガイヌウタキ、②ヤマトウガ ン、③スマヌヌス、④マーンツキ、 ⑤ツミヤルジャー、⑥ムマティダ、 ⑦イイヌウタキ、⑧ピギタラユー ヌヌス、⑨ニスヌリュウグージャ ー、⑩パイヌリュウグージャー、 ⑪ビダマ、⑫スムティダ、⑬カー ヌウガンジョ、⑭カンジャーウタ キ、⑮スムリヤーブナカ、⑯ウプ ヤーブナカ、⑰ヤーマッシャーブ ナカ
2. 与那覇 16カ所	①ブンミヤーウタキ、②ミヤーカ ザーウタキ、③サータウタキ、④ トウマイウタキ、⑤ムトウガーウ タキ、⑥アカチャバーウタキ、⑦ ンナトウウタキ、⑧ヤマトウガン、 ⑨カーニバイウタキ、⑩ヌーマジ ー、⑪カニウズウタキ、⑫アカト ウマラ、⑬イキヌウタキ、⑭カー ウヴァウタキ、⑮前山御嶽、⑯リ ュウグーザー
3. 上地 4カ所	①赤名宮、②大和御嶽、③スマヌ ス、④ムマティダウタキ
4. 洲鎌 4カ所	①赤崎御嶽、②ツヌジ御嶽、③ウ ブンミ御嶽、④プカザキ御嶽
5. 入江 2カ所	①クバカウタキ、②リュウグウタ キ
6. 嘉手苺 4カ所	①ウプウタキ、②ナカウタキ、③ イイヌウタキ、④サトウヌヌス

	メーウタキ
7. 高千穂 3カ所	①カザムミウタキ、②マクゾウク ウタキ、③西ツンマーウタキ
8. 川満 8カ所	①ミイマウタキ、②スーフウツウ タキ、③ウプカーウタキ、④ヌイ マーウタキ、⑤サキマウタキ、⑥ カカラウタキ、⑦ウイヌムミウタ キ、⑧ムスルムバマ
計	58カ所

表 21 伊良部地区

祭祀集団	御嶽・拝所名
1. 伊良部 8カ所	①ブムミヤー、②トゥコンピヤー ズウタキ、③ヌーシウタキ、④伊 良部ナカドゥイウタキ、⑤フツム トゥウタキ、⑥アダンニウタキ、 ⑦カーイウタキ、⑧ミルクウタキ
2. 仲地 4カ所	①プムミヤー、②仲地ナカドゥイ ウタキ、③ナハマウタキ、④ウハ ルズウタキ
3. 国仲 2カ所	①国仲御嶽、②ナカ御嶽（大和御 嶽）
4. 長浜 2カ所	①長浜御嶽（腕山御嶽）、②黒浜 御嶽
5. 佐和田 2カ所	①嵩平御嶽（佐和田ユークイ）、 ○ナカ御嶽、●黒浜御嶽
6. 佐良浜 12カ所	①ウハルズウタキ、②ウジャキニ ー、③ナッヴァニー、④ウイラニ ー、⑤ンヌツニー、⑥ナカマニー、 ⑦アカマニー、⑧ニムラヒャーズ、 ⑨ヒャーズウタキ、⑩カヂウマ、 ⑪サバウツガー、⑫アガイヌカー
計	30カ所

表 22 多良間村

祭祀集団	御嶽・拝所名
1. 仲筋	①運城御嶽、②泊御嶽、③多良間

5カ所	神社、④ンタバウルガン、⑤ピト ウマタウガン
2. 塩川 3カ所	①塩川御嶽、②嶺間御嶽、③普天 間御嶽、●ンタバウルガン、●ピ トウマタウガン
3. 水納 1カ所	水納御嶽
計	9カ所

表 23 平良地区の御嶽・拝所数

地域	1994	2014	地域	1994	2014
池間	15	11	鏡原	56	
			七原		2
			地盛		1
大神	9	7	山中		4
狩俣	54	53	盛加		4
島尻	25	25	野越		5
大浦	17	15	細竹		4
西原	30	13	宮原	19	
福山		11	宮積		6
久貝	44	11	土底		7
松原		13	更竹		4
荷川取	41	3	瓦原		7
成川		7	南増		6
下崎		7	北増		6
東仲	39		カガニ		6
ニヤーツ		2	スナ		6
西仲	36		ムヤ		5
添道		4	高野	3	
下里	22		大神		2
腰原		6	水納		2
西里	26				
富名腰		4	市街地		2
			合計	436	271

資料① 1994年は『平良市史』御嶽編

② 2000-2015年『宮古島市史』祭祀編

表 24 宮古島の御嶽等の推移 (推計値)

地区	1994年	2000-2015	減少数
平良	458カ所	302カ所	156(34)
城辺	154	154	0(0)
上野	86	62	24(28)
下地	104	58	46(44)
伊良部	50	30	20(42)
多良間	51	51	0(0)
計	903カ所	657カ所	246(27%)

資料①1994年は『平良市史』御嶽編

②2000-2015年『宮古島市史』祭祀編

上記の表24から読み取れるものは何か。

①宮古島全体の御嶽・拝所は、1994年の881カ所から2000-2015年には584件となり、297カ所が減少している。減少率は34%である。

②御嶽がすべて残っている地区は、城辺地区である。減少率の少ないところは、上野地区の28%である。

③減少率の一番高いのは、多良間村の82%である。これは今回の祭祀調査の9カ所は、大字祭祀集団の御嶽・拝所のみである。里レベルまたは血族関係の御嶽はカウントされていない。

④平良地区、下地地区、伊良部地区の御嶽を1994年と2000-15年で比較すると約4割程度減少している。

⑤平良地区の大字祭祀集団では、大字の祭祀のみを調査し、里レベルの祭祀は調査していない。そのため里レベルの拝所（血縁集団の拝所）、池間4、西原7、久松20、計31は祭祀編では集計されていない。

⑥御嶽編では宮原地域の44カ所ある御嶽が22カ所だけ記録されている。

⑦以上の数字を補正すると、表24の推計値のとおりで、 $903 - 657 = 246$ 、減少率27%となる。この数値は推計値としてみなすことができる。

よって宮古島の御嶽の減少率は、1994年/2000

年比較で約3割(27%)と推測した。

5. 各集落の神役

これまで宮古島の祭祀件数とその推移、御嶽や拝所の数や推移を調べてみた。次に祭祀の執行にあたって中軸的役割を果たしている神役の人数や推移、神役の名前の呼び方、神役の選出方法などを調べてみたい。神役の状況把握によって課題や問題点を検討してみたい。

5-1 祭祀集団の神役

次の表は、『祭祀編』中巻によるもので、長濱(2021)引用した。

表25 平良地区の神役数 (2000-15年)

祭祀集団	人数	祭祀集団	人数
1. 池間 (9)	8名	18. 地盛	2名
2. 大神 (12)	9	19. 山中	1
3. 狩俣 (30)	21	20. 盛加	1
4. 島尻 (17)	16	21. 野原越	4
5. 大浦 (19)	12	22. 細竹	8
6. 西原 (8)	10	23. 宮積	3
7. 久貝 (12)	9	24. 土底	1
8. 松原 (12)	9	25. 更竹	1
小計 (119)	94	26. 瓦原	1
9. 福山	1	27. 南増原	6
10. 成川	13	28. 北増原	7
11. 下崎	1	29. サカーニ	1
12. 荷川取	4	30. スナ	2
13. 東添道	1	31. ムテヤ	1
14. ニャーツ	1	32. 高野大神	2
15. 富名腰	13	33. 高野水納	3
16. 腰原	1	小計	81
17. 七原	2	34. 市街地	4
		合計	179

平良地区神役の名称は長濱(2021)参照

平良地区大字集落(古い集落)の1980年時点の神役数は、佐々木(1980)の調査によれば119名である。祭祀編調査では2000-2015年時点で大字集落の神役は94名である。2015年以降では、池間(神役8名)、狩俣(21)、島尻(16)、大浦(12)の大半の祭祀が中断したこと、神役も激減している。この集落では1~2名しか神役は残っていない。推計すると $57名 - (4 \sim 8) = 53 \sim 49名$ となる(約50名)。御嶽編調査時点(2000-2015年)とその後を比較すると、その推計値は $94 - 50 = 44名$ となる。神役は、およそ半分に減っていることになる。

小字(新しい集落)・祭祀集団の神役は、2000-2015年時点で81名(25集団)である。

2015年以降、大半の小字集落では神役が1~2名に減少している。推計すると、小字集落25ヵ所 \times 1~2名 $=25 \sim 50$ となる。40名が神役とみなした場合、 $81 - 40 = 41$ で50%の減少である。

表26 城辺地区の神役 (2015年)

祭祀集団	人数	神役名
1. 保良	4	①ツカサ、②ユードス、③パナトゥリヤ、④他
2. 吉野	0	自治会役員
3. 新城	0	自治会役員
4. 皆福	0	20年前中断
5. 七又	0	20年前中断
6. 福東1	0	中断
7. 福東2	0	中断
8. 福東3	1	①サズ
9. 福東4	0	中断
10. 福里字	2	①ツカサ、②トゥム
11. 福中	0	中断
12. 福北1	3	①サス、②新サス、③トゥム

13. 福北 2	0	中断
14. 福南 1	0	中断
15. 福南 2	0	中断
16. 西東	0	自治会役員
17. 仲原	0	自治会役員
18. 加治道	2	①サズ、②サズ (両里)
19. 比嘉	3	①ツカサムマ、②サスヌムマ、自治会役員
20. 西中 1	2	①ビキザス、②ミドゥンザス
21. 西中 2	0	中断
22. 西中 3	0	中断
23. 西西 1	2	①サスヌムマ、②サズ
24. 西西 2	2	①サス、②サズ
25. 西西 3	1	中断 (個々人参拝)
26. 吉田 1	0	自治会役員
27. 吉田 2	0	中断
28. 長南 1	4	①ウサギサス (3 里)、会計
29. 長南 2	0	中断
30. 長南 3	2	①サズ、②サズ
31. 長南 4	0	中断
32. 長南 5	2	ウサギサス男女
33. 長中 1	0	中断
34. 長中 2	0	中断
35. 長北 1	0	中断
36. 長北 2	0	中断
37. 上区 1	0	自治会役員
38. 上区 2	0	中断
39. 上区 3	0	中断
40. 上区 4	0	中断
41. 上区 5	0	中断
42. 下南	0	自治会長夫妻
43. うるか	0	自治会役員
44. 友利	2	イザ (男)、イザ監督
計	32	神役 32÷12 集団=2.6

23 集団は中断、9 集団は自治会役員が代役

城辺地区の神役数は、祭祀編調査時点 (2015 年) で 32 名である。その神役を有する祭祀集団は 12 ヲ所である。9 集団は自治会役員が代役を務めて祭祀を行っている。古い集落の新城、比嘉、うるか、友利では自治会役員が神役の代役を務め、古くからの祭祀伝統を受け継いでいる。このことは特筆すべきことである。城辺地区では、2015 年時点で 23 ヲ所の集落の祭祀が中断され、ここでは神役不在である。

2000-2015 年間は、44 祭祀集団に平均 2.6 名の神役が務めていたと考えられ、その推定数は 114 名となる。2015 年以降の神役は 32 名である。推計値は $114-32=82$ 名であり、72%の減少率である。つまり 7 割余の神役がいなくなった中で、自治会役員 (9 祭祀集団×2.6 名=23 名) が神役の代役を務めているのである。

自治会役員を加えた推計値は、 $114-(32+23)=59$ 名となり、減少率 52%となる。

表 27 上野地区の神役

祭祀集団	神役	神役名
1. 新里	6	①ツカサ、②ユーザス、③ハナトゥリヤ、④ウブムマ、⑤ブントゥリヤ、⑥カントク
2. 宮国	15	①ツカサ、②ユーザス、③ミズヌヌス、④ククヌパイ、⑤~⑮ブドゥイムマター・パギムマター
3. 高田	3	①ニブスシュー、②ウブザス、③ブントゥリヤ
4. 上野	3	①ビキザス、②ウガンサス、③会計
5. 野原	7	①ツカサ、②ミルクザス、③ユーザス、④ナカウタキヌサス、⑤イイウタキヌサス、⑥ムムクリヤヌサス、

		⑦トウム
6. 豊原	2	①ツカサ、②ブントウリヤ
7. 千代田	2	①ツカサ、②サス
8. 名嘉山	4	①ツカサ、②ユーザス、③ミズヌヌス、④自治会役員
9. 大嶺	2	①ウタキサス、②ブントウリヤ
	44	神役 44÷9 集団=5 名

上野地区は神役の継承が、良好に進んでいる。自治会役員が一部サポートした祭祀集団は、名嘉山だけである。

表 28 下地地区

祭祀集団	神役	神役名
1. 来間	5	①ツカサ、②ユージャス、③トウムムマ、④ウガンシュ（男）、⑤サズガマ
2. 与那覇	0	自治会夫妻
3. 上地	2	①ユーザス、②サズ
4. 洲鎌	2	①ツカサ、②ユーザス
5. 入江	0	自治会役員
6. 嘉手苺	0	自治会役員, 10 年前空席
7. 高千穂	3	①ツカサ、②サス、③ウイヌムマ (部落長)
8. 川満	4	①ツカサ、②ユーザス、③ヤマトウムマ、④ウイヌムマ
	16	神役 16÷5 集団=3.2

下地地区は8祭祀集団の内、5カ所は神役の継承が行われている。3カ所は神役が空席で代役として自治会役員が務めている。古い集落の与那覇集落は、自治会長の夫妻が祭祀を執行している。嘉手苺集落は10年前(2010年)に神役の選出が困難となり、自治会役員が代役を務めるようになった。

表 29 伊良部地区

祭祀集団	神役	神役名
1. 伊良部	5	①ユーヌムマ、②ヌーシムマ、③ウガンシュ、④サラヌシュ、⑤チョーヌシュ
2. 仲地	6	ウプムマ、男性神役5名
3. 国仲	3	①ウクムマ、②アーグムマ、③トウムムマ
4. 長浜	3	①ウクムマ、②ナカムマ、③ウットウムマ
5. 佐和田	3	①ウクムマ、②ナカムマ、③ウットウムマ
6. 佐良浜	3	①ウフムマ、②アーグシャ、③ナカムマ
	23	神役 23÷6 集団=3.8

伊良部地区の6祭祀集団は、祭祀編調査時点では神役は揃っていた。仲地集落では2014年に神くじによって神役が選出された。

伊良部地区では2015年から神役不在となり、ほとんどの祭祀が中断した。仲地集落の神役組織は伊良部集落の神役組織と提携していたことから、仲地集落の祭祀も2015年以降大半が中断した。

表 30 多良間村

祭祀集団	神役	神役名
1. 仲筋	10	①ウブジカシャ、②トウムジカシャ、③ニイシャイガッサ、その他補佐役
2. 塩川	10	①ウブジカシャ、②トウムジカシャ、③ニイシャイガッサ、その他補佐役
	20	神役 20÷2 集団=10

多良間村の大字祭祀集団(古い集落)は、神役の継承が良好である。ハチガツウガン(8月踊り)やシツウプナカは村全体で行う伝統行事

として受け継がれ、その祭祀をつかさどる神役の役目は極めて重視されている。

表 31 各地区の神役数推移

	2000-2015	2015 後	減少率
平良	大字 94	44	(53%)
	小字 81	40	(51%)
	市街地 4	4	
計	179 名	88 名	91 (51%)
城辺	114(推定)	32	
		23 役員	
計	114 名	55 名	59 (52%)
上野	44	44	0 (0%)
下地	26	16	
		10 役員	
計	26 名	26 名	0 (0%)
伊良部	23 名	10 名	13 (57%)
多良間	20 名	20 名	0 (0%)
合計	402	210 神役	
		33 役員	
合計	402 名	243 名	159 (40%)
集団	103 カ所	80	
1 集団	3.9 名	3.0	

役員とは自治会役員のこと

上記の表から読み取れるものは何か。

①平良地区では、祭祀編調査時（2000-2015 年）に 179 名の神役が務めているが、2015 年以降は 88 名となった。空席・不在となった神役は 91 名で、減少率は 52% である。大字（古い集落）、小字（新しい集落）とも神役は半分に減少している。

②城辺地区は、2015 年段階で中断した祭祀に関しては、神役は不在である。2000-2015 年の間の神役数は明らかでない。それで 44 カ所の祀集団に平均神役数 2.6 名を乗じて、114 名の神役が存在したであろうと推定した。2015 年段階で

は、神役が 32 名、自治会役員 23 名が代役を務め、合わせて 55 名である。だとすれば $114 - 55 = 59$ の計算となり、減少率は 52% (59) である。③上野地区、下地地区、多良間村では、神役継承への努力が行われて、神役は確保されている。つまり減少率は 0% である。

④伊良部地区は、伊良部、仲地、佐良浜の祭祀が大幅に中断しているため、神役の空席が増えている。数は 23 名から 10 名となり、減少率は 57% (13 名) となっている。

⑤宮古島全体で 2000-2015 年時点で 402 名の神役が務めていたが、2015 年以降は 243 名となり、減少率は 40% (159 名) となっている。

⑥平良地区の祭祀集団の 1 カ所当たり平均神役数は、2000-2015 年時点では大字（古い集落）が 12 名、小字（新しい集落）が 3 名であった（平良大字・神役 $94 \div$ 祭祀集団 $8 = 12$ 、小字 $81 \div 25 = 3$ ）。2015 年以降は古い集落が $44 \div 8 = 5.5$ 名、新しい集落が $40 \div 25 = 1.6$ となっている。

⑦宮古島全体の 1 集団当たり神役数は、2000-2015 年時点で、神役 402 名 \div 祭祀集団 103 カ所 $= 3.9$ 名である。2015 年以降の神役は 243 名 \div 祭祀集団 80 $= 3$ 名である。各地区 1 集団当たりの神役数は、次表 32 のとおりである。

表 32 各地区の神役数 (2000-2015 年)

地区名	祭祀集団 全体(神役在)	神役 人数 (1 集団)
1. 平良	34 (34)	179 (5.2)
2. 城辺	44 (12)	32 (2.6)
3. 上野	9 (9)	44 (5.0)
4. 下地	8 (5)	16 (3.2)
5. 伊良部	6 (6)	23 (3.8)
6. 多良間	2 (2)	20 (10.0)
	103 カ所(68)	314 人(4.6)

5-2 神役の名称と役割分担

古い祭祀集団の神役は、それぞれ役割を分担

している。10名前後の神役を有するが、中でも最高神女、祈願女、補佐役が三役としての役割を持つ。名称は最高神職が大司（池間・フズカサ、大神・ウブツカサ、狩俣・アブムマ、島尻・スマヌヌツカサ、久松・ツカサ）である。御嶽神のイビに線香、酒、塩、供物を捧げ、神に願いうつを伝える役割をもつ。

大司に次いで大事な役を担うのは、アーグシャー、またはユーザス・ユーヌヌスである。

以前は神がかりをし、人と神との仲介を取り持つ役とも云われた。神歌を歌うことから、アーグシャーとも呼ばれる。線香をイビに立て、唱え事もする場合もある。

次に大司とユーザスの補佐役である。トゥムムマ・供ムマと呼ばれる。供物や祭具の準備などをする。

三役は白い神衣装を身にまとい儀礼をつかさどっている。

新しい祭祀集団には三役はいない。1～2名の神役だけで、ウサギサスやサズと呼ばれ、服装は普段着のままである。

表 33 神女の名称

集落	最高神女	祈願女	補佐	他
池間	フズカサ	アーグシャー	ナカム	5
大神	ウブツカサ	ナツカサ	ニヌカム	6
狩俣	アブムマ	ヤマトムマ	フサヌス	18
島尻	島ヌ主	世ヌ主	水ヌ主	13
大浦	ウブラガス	水ヌ主	ムマテイダ	9
西原	フズカサ	アーグスマ	ナズカサ	7
久松	ツカサ	ユーザス	ツカサトウム	6
鏡原	ウサギサス	サズ		
宮積	サズ	サズ		
増原	ウサギサス	サズ	幹事	
高野	ウサギサス	サズ		
保良	ツカサ(司)	ユーダス	パナトウリヤ	1
福里	ツカサ	トウム(供)		

西東比嘉	自治会 ツカサマ	役員 サヌム	役員 役員		
西中	ビギサス	ミトウンダス			
西西	サヌム	サズ			
長南	ウサギサス	サズ			
砂川	自治会	役員	役員		
友利	イザ(男)	イザ監督			
新里	ツカサ	ユーダス	パナトウリヤ	3	
宮国	ツカサ	ユーダス	ミスヌス	12	
高田	ニブスシュ	ウフダス	バントウリヤ		
上野	ビギサス	ウガンサス	会計		
野原	ツカサ	ミルクダス	ユーダス	4	
豊原	ツカサ	バントウリヤ			
大嶺	ウタキサス	ニガイサズ			
来間	ツカサ	ユーダヤス	トウムマ	2	
洲鎌	ツカサ	ユーダヤス			
入江	自治会	役員			
川満	ツカサ	ユーダス	ヤマトウム	1	
伊良部	ユヌム	ヌシム	ウカムシュー	2	
国仲	ウカム	アーグム	トウム		
長浜	ウカム	ナカム	ウットウム		
佐和田	ウカム	ナカム	ウットウム		
佐良浜	ウフム	アーグシャー	ナカム		
仲筋	ウフジカシャ	トウムジカシャ	ニシャカッサ	7	
塩川	ウフジカシャ	トウムジカシャ	ニシャカッサ	7	

5-3 神役の選出方法、年齢、任期

古い集落の神役選出は、神くじによるものが多い。しかし近年は、神くじによる神役選出が難しくなっている。その要因は、大字集落では年間祭祀が多く、神役の負担が大きいことや、神役になると行動規制（葬式への参加禁止、島を出ることは禁止など）がある。会社などに勤めている女性は、仕事と祭祀執行の両立は困難との理由で辞退するものが増えている。

こうしたことから、自治会役員が神役を代行する事例が増えている。

新しい集落では、輪番制で神役を担う集落が増えてきている。男女の区別はなくなっている。

表 34 神役選出方法 (2000-2015年)

集落	選出方法	年齢	任期
池間	女性、神くじ	51～55	3
狩俣	女性、神くじ	50以上	
島尻	女性、神くじ		
西原	女性、神くじ	46以上	3～5
久松	女性、神くじ		3
鏡原	男女、輪番制	制限なし	1～2
宮原	男女、輪番制	制限無し	1～2
高野	女性、抽選		
福西	2017年空席	(2017欠)	
比嘉	女性、神くじ	60～85	2
長南	男女、輪番制	制限無し	1
長中	2015年空席		
上区	自治会役員	(2015欠)	
うるか	自治会役員	(2013欠)	
友利	男 40才	(2013欠)	2
宮国	女性、神くじ		
高田	女性、神くじ		5
野原	女性、		5
豊原	女性		5
来間	女性、神くじ	55以上	
与那覇	自治会役員	(2013欠)	
洲鎌	女性、		3
嘉手苺	自治会役員	(1994欠)	
川満	女性、神くじ	55～72	3
伊良部	女性、神くじ	(2015欠)	
仲地	女性、神くじ	60～65	3
長浜	女性、神くじ	50～60	3
佐和田	女性、神くじ	50～59	3
佐良浜	女性、神くじ		3
多良間	男女、神くじ		2

西原、佐良浜 ユークイムマ 47～56 (数え)

表 35 神くじによる神役の選出方法

	仲地	佐和田	比嘉
場所	ブンミヤ	高平御嶽	司御嶽
対象	60-65 女性	50-59 女性	60～女性
同席者	現神役 3名 元神役 自治会長 役員	現神役 3名 元神役 自治会長 役員	現神役 自治会長 役員
方法	自治会長が神役対象者を紙片一枚に1人ずつ記す。紙片を折り畳み、盆にのせる。盆を左右に振り、神くじをおろす。盆から落ちた紙片の名前を確認する。これを定めた回数繰り返す。数多く落ちた紙片に記された人が神役として選出される。		

資料：『祭祀編』下巻 比嘉 102 頁、仲地 732 頁、佐和田 743 頁

表 36 神くじによる神役の選出方法

	川満	西原	多良間
場所	ミイマ御嶽	御嶽神前	二才頭宅
対象	60-72 女性	47-56 女性	氏子集団
同席者	現神役 3名 集落会長 集落会計	現神役 自治会長 役員	現神役 氏子集団
方法	川満と西原は、集落会長が神役対象者を紙片一枚に1人ずつ記す。紙片を折り畳み、盆にのせる。ツカサが盆を左右に振り、神くじをおろす。盆から落ちた紙片の名前を確認する。これを定めた回数繰り返す。数多く落ちた紙片に記された人が神役として選出される。 多良間は二才頭宅で氏子が集まり、協議の上で選んでいる。		

資料：『祭祀編』下巻 川満 548 頁

5-4 神役の草木装束 (草装・木装)

表 37 草木装束の祭祀 (2000-2015年)

集落	祭祀	装束
1. 池間	ユークイ カエルガマ	草冠(グンパ ^ハ 化ルガ ^オ)手 草(ダンチク)、腰帯(グンパ ^ハ 化ルガ ^オ) 草冠(キャン)、手草(ダン チク)
2. 大神	ウヤガン パーントウ	草冠、杖、手草 草装、仮面
3. 狩俣	ウヤーン	草冠(カラスキバサンキライ)、杖 (リュウキョウガキ)、手草(グ ミトドキ)、腰帯(トウツルモ キ)
4. 島尻	ウヤガン パーントウ	草冠(カラスキバサンキライ)、杖 手草(シヤマヒハツ)、腰帯(ク ロツグ) 仮面、キャン(シノキカズ ラ)
5. 西原	ユークイ	草冠、手草
6. 久貝	ザークル	帯・手草(カ ^ハ の葉)
7. 松原	ザークル	帯・手草(カ ^ハ の葉)
8. 比嘉	20日正月 ンナフカ	草冠(クロツグ) 草冠(クロツグ)・(杖クロツ グ)
9. 福里	ンナフカ	草冠、杖
10. 友利	ナーパイ	杖(ダンチク)
11. 砂川	ナーパイ	杖(ダンチク)
12. 新里	麦ブーイ	草冠カス、手フサ
13. 宮国	ンナフカ	草冠カス(リュウキョウホ ^ハ タンヅ ル)、手草(グミトドキ)
14. 野原	サトウ ^ハ トウ	草冠(マーニ)、手草(グミ トドキ)
15. 国仲	ユークイ	草冠(マーニ)
16. 佐良浜	ユークイ カエルガマ	草冠、手草 冠(キャン)、杖(ダンチク)

上記の表から読み取れるものは何か。

①草木装束(草装・木装)する祭祀集団は16カ

所で、古い集落がほとんどである。21祭祀で神役が草木装束をしている。草木装束は頭にカウス(草冠)をかぶり、手に杖とティウサ(手草)も持つ姿である。

②装束に用いる草木は、宮古島の在来種である。マーニ(クロツグ)、キャン(シノキカズラ)、カラスキバサンキライ、グミモドキ、グンパイヒルガオ、ダンチク、クバなどで、生命力・繁殖力の強い植物ばかりである。

③草木装束で行われる祭祀のパーント、サトウパロウ、カエルガマ、ザークルでは、テフサ(手草)で家の戸を叩いたりして悪霊・厄払いをしている。ウヤガン、ンナフカ、ユークイでは草冠をかぶり、ユー(豊穰)を乞い、それを村人に与えている。

④草木装束は、草木に霊が宿っているとの考えによるものである。草木を身にまとうことで、神役や神になり変わったと言える。

④『琉球国由来記』には、狩俣のウヤーンに関し「神遊びの由来」の記述があり、要約すると、次のとおりである。

「山のフセライは、狩俣に天降りしたアサテイダの娘である。15才の頃、髪を乱し白浄衣を着ける。草カズラを帯にし、つる草を鉢巻の形にして冠にする。クバの葉幹を杖にして右手につき、手草を左手に持つ。神歌を謡って、私は世のため神になると告げると、ニスヌ山(聖林)に入って行方知れずになった。それより、狩俣の女子たちが年に1度、ニスヌ山に集まってフセライの祭礼をする」。

狩俣のウヤガンの草木装束は、フセライ神の姿であり、神になり変わったと云うことになる。⑤1532年尚清王を冊封しに来た明国の冊封使・陳侃(ちんかん)が次のような記録を残している。

「国王は神を敬い、この国の人々は神を恐れるのである。よりましとなる女を女君と名づけ、

上に立つものから、それに従うものまでが3ないし5百人ほど縦に並んで、それぞれが草のかぶりものをいただき、木の枝を持って、馬にのる者もあり、徒歩のものもあり、王宮に入って神遊びをする。1人が歌い出すと、皆それにあわせ、その歌う声は悲哀にみちている。・・・福建から来て王宮の宴会のために雇われた者が、彼等自身で神を見ている「『陳侃使琉球録』訳注者・原田禹雄 1995」。

⑥県内では草木装束の祭祀が各地で行われていた。沖縄諸島43祭祀、八重山諸島10祭祀（『沖縄県史』民俗篇 2020）

⑦国頭村の比地小玉森のウンジャミでは、海草の冠をかぶった神役は、海からの渡来神であり、山草の冠をかぶった神役は、山からの渡来神であるといわれている。この2神は豊穰をもたらす神として崇められている。

5-5 御嶽籠もり祭祀

『宮古島市史』第二巻 御嶽編で取り上げられた夜籠もり祭祀をまとめてみた。平良地区は長濱（2021）を参照した。

表 38 平良地区の夜籠もり祈願 (2000-15年)

集落	祭祀
池間 11回	世の為・世乞い3回、粟・イモ木綿花の豊作4回、大風除け2回 航海安全2回
大神 5回	ウヤガン①4泊/5日、②3/4、③4/5、④4/5、⑤4/5
狩俣 5回	ウヤーン①4泊/5日、②9/10、③2/35、④3/4、⑤10/11
島尻 5回	ウヤガン①4泊/5日、②4/5、③4/5、④4/5、⑤4/5
大浦	フユグムイ 1回 1泊2日 1回
西原 6回	世の為・世乞い2回、麦・イモ木綿花の豊作2回、大風除け2回

久貝 4回	粟・キビ・豆3回、航海安全1回
松原 4回	粟・キビ・豆3回、航海安全1回
富名腰 1回	10月ウガン
平良 計42回	始祖崇拜16回、粟・麦・イモ・木綿花・豆・キビの豊作12回、大風除け4回、航海安全4回、10月ウガン1回、世の為・世乞い5回

表 39 旧町村の夜籠もり祈願 (2000-15年)

集落	祭祀
保良 1回	①2月プーイ4泊5日安全と豊作
新城 1回	①8月グムイ4泊5日を1日に短縮、集落の安全と豊作
砂川 1回	2月グムイ2泊3日、豊穰繁栄
友利 1回	2月グムイ1泊2日、豊穰繁栄
宮国 6回	①ムヌグムイ2泊3日豊穰豊漁、②リュウグニガイ1泊2日航海安全、③スツマスニガイ1泊2日豊穰祈願、④クユキンナフカ1泊2日豊穰祈願、⑤フナヤーニガイ3泊4日豊穰祈願、⑥スカプヤームトゥニガイ2泊3日豊穰祈願
来間 4回	①4月グムイ2泊3日豊穰健康、②6月グムイ2泊3日豊穰健康、③8月グムイ2泊3日豊穰健康、④ピトゥユーグムイ1泊2日健康祈願
与那覇 1回	①ナンカグムイ6泊7日を1日に短縮、豊穰祈願
上地 1回	①ツノジナンカグムイ6泊7日豊穰と健康
洲鎌	①ツノジナンカグムイ6泊7日、

1回	豊穰と健康
川満 1回	①ミイマクムイウガン、ミイマ御嶽籠もり御願。1日に短縮
国仲 1回	①ユークイ1泊2日 世乞い
長浜 1回	①ユークイ1泊2日 世乞い
佐和田 1回	①ユークイ1泊2日 世乞い1回
仲筋 1回	①クムリウガン1泊2日五穀豊穰
塩川 1回	①クムリウガン1泊2日五穀豊穰
旧町村 計23回	集落の安全と豊作2回、村の豊穰繁栄10回、豊穰と健康7回、世乞い3回、航海安全1回

上の表から読み取れるものは何か。

①夜籠もり祈願は、古い集落全てで行われ、祭祀数は65件である(富名腰は例外)。

②夜籠もり祭祀で、期間が長いのは、狩俣の5回目のウヤーン・トゥデアギで、10泊11日行われた。大神、島尻のウヤガンは4泊5日である。ウヤガン祭は大神、島尻、狩俣とも5回に渡り行われる。旧町村では与那覇、上地、洲鎌のツヌジナンカグムイが6泊7日と長い御嶽籠もり祭祀である。

③祭祀目的では、平良地区が始祖崇拜、粟や麦、イモ、豆、キビなど作目ごとの祭祀、大風鎮(ウカジダミ)、航海安全など個別目的の祈願が多い。一方、旧町村では集落全体の豊穰と村人の健康と安全を祈願するため、御嶽にクムイ・ニガイするのが多い。

④夜籠もり中は、線香を絶やすことなく焚き続ける。これは夜通し祈りを捧げ、神とふれあうことを意味している。

おわりに

この小論は、『宮古島市史』祭祀編(上・中・下)に取り上げられた宮古島の祭祀を類型化すること、あわせて祭祀データを数値化したものである。分類にあたっては、まず10分類したうえで共通目標を4つにしぼり込んだ。この四大目標は四大儀礼であり、宮古島祭祀の特徴を示していると考えられる。

10年にわたる祭祀編小委員会の調査結果を、表1から表39にわたって数値化した。この数値は、宮古島祭祀の全体像を浮き彫りにするデータだと考える。分析した数値から読み取れるものは何か、という問題意識で若干のコメントを付け加えたものの、まだ不十分である。神歌から祭祀の内容を読み取ること、祭祀がどのように変遷してきたか、これらを明らかにするとともに、分析した数値の考察を深めることが、今後の課題だと思っている。

謝辞

『みやこの祭祀』編さんに携わった祭祀編小委員会と作業部会の皆さんや、協力して下さった神役や自治会役員の方々にお礼申し上げます。本小論執筆にあたって市史編さん事務局の新垣則子さんと佐藤宣子さんからは祭祀内容への貴重なご意見を伺った。宮古島市総合博物館学芸係・與那覇史香さんには校正などで協力いただいた。記してお礼申し上げます。

参考文献

- 本永 清 2020「宮古諸島の村落祭祀」『沖縄県史』9 民俗篇
 長濱幸男 2021「ひらら祭祀の類型化」『宮古島市総合博物館紀要』第25号
 谷川健一 1992『琉球弧の世界』小学館